

一	耶路撒冷十四節
二	羅馬九章
三	羅馬九章
四	羅馬九章
五	羅馬九章
六	羅馬九章
七	羅馬九章
八	羅馬九章
九	羅馬九章
十	羅馬九章
十一	羅馬九章
十二	羅馬九章
十三	羅馬九章
十四	羅馬九章
十五	羅馬九章
十六	羅馬九章
十七	羅馬九章
十八	羅馬九章
十九	羅馬九章
二十	羅馬九章
二十一	羅馬九章
二十二	羅馬九章
二十三	羅馬九章
二十四	羅馬九章
二十五	羅馬九章
二十六	羅馬九章
二十七	羅馬九章

三三 ちりちりオ我キリストに於て爾曹に安を問三我ど全會の寓主ガヨス爾曹の
 三二 に安を問り邑の庫司ユラストまた兄弟クアルト爾曹に安を問り三我儕の
 三二 主イエスキリストの恩なんぢらと偕に在んことを願ふアマンソソ世の成ぎ
 三二 りし前より隠藏たりしかば萬國の民をして信じて服ハしめんが爲いす窮乏
 三二 き神の命に遵ひ預言者の書に因て顯れし其奧義に循ひて我つたふる福音
 三二 および我が説どこのイエスキリストの教訓を照し爾曹を堅固すること
 三二 を得るの三即ち獨一睿智神に榮光輝奈くイエスキリストに由て在んこと
 三二 を願ふアマソ

新約全書羅馬書終

一	加一〇節
二	羅馬九章
三	羅馬九章
四	羅馬九章
五	羅馬九章
六	羅馬九章
七	羅馬九章
八	羅馬九章
九	羅馬九章
十	羅馬九章
十一	羅馬九章
十二	羅馬九章
十三	羅馬九章
十四	羅馬九章
十五	羅馬九章
十六	羅馬九章
十七	羅馬九章
十八	羅馬九章
十九	羅馬九章
二十	羅馬九章
二十一	羅馬九章
二十二	羅馬九章
二十三	羅馬九章
二十四	羅馬九章
二十五	羅馬九章
二十六	羅馬九章
二十七	羅馬九章
二十八	羅馬九章
二十九	羅馬九章
三十	羅馬九章
三十一	羅馬九章
三十二	羅馬九章
三十三	羅馬九章
三十四	羅馬九章
三十五	羅馬九章
三十六	羅馬九章
三十七	羅馬九章
三十八	羅馬九章
三十九	羅馬九章
四十	羅馬九章
四十一	羅馬九章
四十二	羅馬九章
四十三	羅馬九章
四十四	羅馬九章
四十五	羅馬九章
四十六	羅馬九章
四十七	羅馬九章
四十八	羅馬九章
四十九	羅馬九章
五十	羅馬九章

新約全書使徒パウロコリント人に贈れる前書
 一 神の旨により召てイエスキリストの使徒となし給へるパウロ及
 二 び兄弟ツスマチニ書をコリントにある神の教會即ちキリストイエスに在
 三 て撰られ召れて聖徒となる者および彼等の處にも我儕の處にも諸處に
 四 於て我儕の主イエスキリストの名を願者に安で贈る三なんぢら願くハ我
 五 儕の父ある神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ○四イエス
 六 キリストに在て爾曹が賜りし神の恩寵について我恒に爾曹の爲に我神ホ
 七 感謝す五蓋なんぢら彼お在て諸事すなハ凡の教訓と凡の知識に富こと
 八 を得たれば也六是キリストの證なんぢらの中に堅せられしに因て爾
 九 曹ハ賜れる所の恩寵かくることと亦く我儕の主イエスキリストの顯れんて
 十 どもと俟り八神ハ終まで爾曹を堅し我儕の主イエスキリストの日に於て爾
 十一 曹に責なからしむられ神ハ誠信なり彼なんぢらに召て其子われらの主
 十二 イエスキリストの交際に入しめ給へり○十兄弟よ我儕の主イエスキリス

カ	歌三〇一、二、三
ク	林前三〇四、六
ク	林前二八、六
ク	林前二〇四、二、三
ク	林前二〇二、四、六
ク	林前二〇一、二、三、四
ク	林前二〇〇、二、三、四、五、六、七、八
ク	林前一九九、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇
ク	林前一九八、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇
ク	林前一九七、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇

十一 神の名に記て我ならんがらに勸む爾曹みな言とを同じ且分争なく心を同
 し意を同じて聯合べし十二蓋わが兄弟よクロエの家人爾曹の事を我に告て
 爾曹の中に争ひありと言たれば也十三爾曹おのの我ハバウロ我ハアポロ
 我ハクバ我ハキリストに属すと云われ之を言なり十三キリストハ多数に分
 ると者ならん乎バウロハ爾曹の爲に十字架に釘られし乎また爾曹ハバ
 ウロを受てバウロの名に入しや十四われ神に謝す我ハクリスボデガヨス
 の外ならんがらの申一人にもバウロを受しと云なし十五此ハ我名に托て
 パウロを施すと人と言れんことを懼たれば也十六我またストラバナの家
 族にバウロを施せり此外にハ我人にバウロを受しと云ふ有るや否
 を知ず十七キリストの我を遣しハバウロを施させん爲に非ず福音を
 宣傳しめん爲も又われに言の智慧を用しめ給はず是キリストの十字架
 の虚くならざらん爲なり十六うれ十字架の教ハ沈淪者にハ愚なるもの我儕
 救るく者にハ神の能たるなり十九即ち録して我智者の智を滅し愚者の慧を

カ	林前三〇一、二、三
ク	林前三〇四、六
ク	林前二八、六
ク	林前二〇四、二、三
ク	林前二〇二、四、六
ク	林前二〇〇、二、三、四、五、六、七、八
ク	林前一九九、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇
ク	林前一九八、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇
ク	林前一九七、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇

二十 魔くせんは有が如し二十智者安に在この世の論者いづくにわ
 くる神ハ此世の智慧をして愚ならしむるに非ずや三世人ハ己の智慧を恃て
 神を知らず是神の智慧に適へるなり是故に神ハ傳道の愚なるを以て信する
 者を救を善とせり三ユダヤ人の休徴を乞ヒリシヤ人の智慧を寛じ三我儕
 ハ十字架に釘られしキリストを宣傳す即ち此ハユダヤ人にハ礙く者ギリ
 シヤ人にハ愚なる者なり三自然召れたる者にハユダヤ人にもギリシヤ人
 にもキリストハ神の大能また神の智慧なり三三うれ神の愚ハ人よりも慧く
 神の弱ハ人よりも強し三兄弟よ召を蒙れる爾曹を觀よ肉に循る智慧ある
 もの多らず能ある者おほからず貴き者多らざる也三七神ハ智慧を愧しめん
 きて世の愚なる者を選び強者を愧えめんきて世の弱者を選ん三八また神ハ
 有者を滅さんにて世の賤者藐視らるるもの即ち無が如き者を選び給へり
 三五これハ人神の前に誇てよからん爲なり三爾曹ハ神に由てキリス
 トイエスに在イエスハ神に立られて爾曹の智慧また義また聖また贖と爲た

七 耶六〇四、
 九 徒三〇五、七、
 十 哥後十二七、四〇、三、
 十一 羅前一、
 十二 徒五〇七、
 十三 哥後一、二、
 十四 徒三〇五、五、
 十五 徒三〇五、六、
 十六 徒三〇七、
 十七 徒三〇七、
 十八 徒三〇七、
 十九 徒三〇七、
 二十 徒三〇七、

三十一 又三録して誇る人土お因て誇るべしど在が如し
 三十二 兄弟よ我養お爾曹お到りし時も言ど智慧の美たるを以なんぢら
 三十三 神の證を傳ざりき 蓋われイエスキリスト彼の十字架架お釘られし事の
 三十四 外ハ爾曹の中お在て何をも知まじど意を定められたれば也 我なんぢらと僭
 三十五 小居し時ハ弱かつ懼れた多く戰慄し 我言し所また我宣し所ハ人の智慧
 三十六 婉言を用ゐず唯靈と能の證を用ゐたり 蓋なんぢらの信仰をして人
 三十七 智慧に由ず神の能お由しめんど欲べなり 然れども我儕全き者の中お智
 三十八 慧を語る是之の世の智慧お非ず亦此世の有司廢らんとする者の智慧お非
 三十九 ず 我儕の語る所ハ秘密たりし神の奧義の智慧なり 此ハ創世の先より神
 四十 預じめ我儕をして樂を得しめんが爲お定め給ひしもの也 此世の有司
 四十一 此之を識もの一人もなし若し識ハ樂の主を十字架架お釘ざりしならん 九録
 四十二 して神の己を愛する者の爲お備へ給ひしものハ目いまた見ず耳いまた聞
 四十三 ず人の心いまた念ざる者なりど有が如し 然れども神ハ其靈をもて之を我儕

十一 此 羅十四〇、
 十二 弟一〇世三四、但十一
 十三 弟八〇五、十六、
 十四 約十六〇、十四、十五、 約三二
 十五 弟一〇世三六、
 十六 弟一〇世三六、
 十七 弟一〇世三六、
 十八 弟一〇世三六、
 十九 弟一〇世三六、
 二十 弟一〇世三六、

三十一 に顯せり靈ハ萬事を究知せられた神の深事をも究知るなり 一うれ人の情ハ其
 三十二 中にある靈の外に誰か之を知んや此の如く神の情ハ神の靈の外に知もの
 三十三 なし 我儕の愛しハ此世の靈に非ず神より出る靈なり 是神の我儕に賜し
 三十四 所のものを知べき爲おかり 且われら此事を語るに人の智慧の教る所の言
 三十五 を用ゐず聖靈の教る所の言を用ゐる 亦り即ち靈の言を以て靈の情に當るな
 三十六 り 肉性來のまゝなる人ハ神の靈の情を受ず是かれにハ愚なる者ぞ見れバ
 三十七 なり 又之れを知てと能ハ蓋靈の情ハ靈に由て辨ふべき者なるが故かり
 三十八 然れども靈に屬るものハ萬事を辨へ知まかして己ハ人に辨へ知るゝことな
 三十九 し 誰か主の心を知て主を教る者有んや 然れども我儕ハキリストの心を有り
 四十 兄弟よ 我さきに爾曹に語れるとき靈に屬る者に語るが如くする能
 四十一 ハ 亦惟肉に屬る者の如く亦キリストをわをる赤子お語る如くせり 二われ爾
 四十二 曹お乳を哺しめて堅き物を予ざりき 爾曹食ふこと能ハざればなり 今も尙
 四十三 ち 蓋なんぢら箇肉お屬る者なれば也 なんぢらの中お嫉妬と紛争

和	第卅四章十二
カ	第卅三章六
キ	第卅三章七
ク	第卅三章八
ケ	第卅三章九
コ	第卅三章十
ク	第卅三章十一
ケ	第卅三章十二
コ	第卅三章十三
ク	第卅三章十四
ケ	第卅三章十五
コ	第卅三章十六
ク	第卅三章十七
ケ	第卅三章十八
コ	第卅三章十九
ク	第卅三章二十
ケ	第卅三章二十一
コ	第卅三章二十二
ク	第卅三章二十三
ケ	第卅三章二十四
コ	第卅三章二十五

四 わり此なんぢら肉を屬て人の如く行ふも非ずや、我ハパウロも屬われハ
 アポロも屬といふ者のあるハ此なんぢら肉も屬するならんや、パウロハ誰
 アポロハ誰われらハ惟おのし、お賜れる恩も隨ハ爾曹をして信せしめん
 どて勤る者なるの外なし、然ハ我ハ種アポロハ種、長る者ハ種、神なり
 種るもの、權も數るも足す、惟貴きハ長る所の神なり、ハ種者も權
 者も異なることなし、各々功カを循以て其賞を得べし、我儕ハ神と
 同ハ働
 十 人者なり、爾曹ハ神の田、神の室なり、神の我ハ賜し恩も循以て我賢キ工師
 の如く、既ハ基礎を置たり、今汝ハかの人の上ハ建、いかハ其上に建、べき乎、お
 のおの、慎て爲べし、ハ置給、以し基礎の外、誰も基礎を置くこと能ざれ
 十一 ハ也この基礎ハ即ちイエスキリストなり、ハ人この基礎の上ハ金銀寶
 石、木草、禾稿を以て建、な、ハ各人の工ハ明かならん、夫日之れを顯す可
 べし、
 十二 なり、此ハ火ハ、おて顯れん、其火おのし、の工の如何を試むべし、
 十三 若者の建る所の工、たも、たハ、賞を得、若者の工、や、かれ、な、
 十四 損を受、され、已ハ、火より、脱

三	第卅六章五
シ	第卅六章六
サ	第卅六章七
セ	第卅六章八
ソ	第卅六章九
タ	第卅六章十
チ	第卅六章十一
リ	第卅六章十二
ニ	第卅六章十三
ハ	第卅六章十四
ヘ	第卅六章十五
ニ	第卅六章十六
ハ	第卅六章十七
ヘ	第卅六章十八
ニ	第卅六章十九
ハ	第卅六章二十
ヘ	第卅六章二十一
ニ	第卅六章二十二
ハ	第卅六章二十三
ヘ	第卅六章二十四
ニ	第卅六章二十五
ハ	第卅六章二十六
ヘ	第卅六章二十七
ニ	第卅六章二十八
ハ	第卅六章二十九
ヘ	第卅六章三十
ニ	第卅六章三十一
ハ	第卅六章三十二
ヘ	第卅六章三十三
ニ	第卅六章三十四
ハ	第卅六章三十五
ヘ	第卅六章三十六
ニ	第卅六章三十七
ハ	第卅六章三十八
ヘ	第卅六章三十九
ニ	第卅六章四十
ハ	第卅六章四十一
ヘ	第卅六章四十二
ニ	第卅六章四十三
ハ	第卅六章四十四
ヘ	第卅六章四十五
ニ	第卅六章四十六
ハ	第卅六章四十七
ヘ	第卅六章四十八
ニ	第卅六章四十九
ハ	第卅六章五十
ヘ	第卅六章五十一
ニ	第卅六章五十二
ハ	第卅六章五十三
ヘ	第卅六章五十四
ニ	第卅六章五十五
ハ	第卅六章五十六
ヘ	第卅六章五十七
ニ	第卅六章五十八
ハ	第卅六章五十九
ヘ	第卅六章六十
ニ	第卅六章六十一
ハ	第卅六章六十二
ヘ	第卅六章六十三
ニ	第卅六章六十四
ハ	第卅六章六十五
ヘ	第卅六章六十六
ニ	第卅六章六十七
ハ	第卅六章六十八
ヘ	第卅六章六十九
ニ	第卅六章七十
ハ	第卅六章七十一
ヘ	第卅六章七十二
ニ	第卅六章七十三
ハ	第卅六章七十四
ヘ	第卅六章七十五
ニ	第卅六章七十六
ハ	第卅六章七十七
ヘ	第卅六章七十八
ニ	第卅六章七十九
ハ	第卅六章八十
ヘ	第卅六章八十一
ニ	第卅六章八十二
ハ	第卅六章八十三
ヘ	第卅六章八十四
ニ	第卅六章八十五
ハ	第卅六章八十六
ヘ	第卅六章八十七
ニ	第卅六章八十八
ハ	第卅六章八十九
ヘ	第卅六章九十
ニ	第卅六章九十一
ハ	第卅六章九十二
ヘ	第卅六章九十三
ニ	第卅六章九十四
ハ	第卅六章九十五
ヘ	第卅六章九十六
ニ	第卅六章九十七
ハ	第卅六章九十八
ヘ	第卅六章九十九
ニ	第卅六章一百

十六 出る如く、終にハ、救れん、ハ、爾曹ハ、神の殿にして、神の靈なんぢら
 の中に在す
 十七 ことを知る平也、ハ、神の殿を毀た、ハ、神かれを毀た、ハ、蓋神の殿ハ、聖も
 十八 の、され、ハ、也この殿ハ、即ち、爾曹なり、ハ、誰も、自ら、欺く、勿れ、若
 十九 ならん、ぢらの中に
 二十 此世に於て、智、わ、り、と、意、ふ、者、わ、ら、ハ、智、者、と、あ、ら、ん、爲、に、愚、に、あ、る、べ、し、
 廿一 蓋
 廿二 この世の智ハ、神の前に、愚、な、れ、ハ、な、り、總して、云、く、神ハ、智、者、を、其、み、づ、か
 廿三 ちの、詭計に、囚、て、拘、入、す、ま、た、云、く、主ハ、智、者、の、思、念、を、虚、き、も、の、と、知、た、ま、ふ、
 廿四 然、ハ、誰、も、人、に、誇、る、勿、れ、萬、物、ハ、爾、曹、の、物、あ、り、三、或、ハ、バ、ウ、ロ、或、ハ、ア、
 廿五 ポ、ロ、或、ハ、
 廿六 ケ、バ、或、ハ、世、界、あ、る、ハ、ハ、生、あ、る、ハ、ハ、死、あ、る、ハ、ハ、今、の、ハ、の、或、ハ、後、の、ハ、の、是、ハ、
 廿七 爾、曹、の、屬、な、り、三、爾、曹、ハ、キ、リ、ス、ト、の、屬、キ、リ、ス、ト、の、神、の、屬、な、り
 廿八 爾、曹、
 廿九 人、宜、く、我、儕、を、キ、リ、ス、ト、の、役、者、の、如、く、神、の、奧、義、を、司、さ、る、家、宰、の、如、く
 三十 意、ふ、べ、し、
 三十一 又、之、の、世、に、在、て、家、宰、に、求、る、所、ハ、其、思、信、な、ら、ん、と、也、三、わ、れ、爾
 三十二 曹、に、審、判、れ、或、ハ、人、に、審、判、る、こ、と、を、尤、も、細、事、と、な、す、我、も、自、己、を、審、判、す、
 三十三 我、み、づ、か、ら、皆、る、も、過、わ、る、を、覺、す、然、也、
 三十四 此、ハ、
 三十五 我、も、
 三十六 我、も、
 三十七 我、も、
 三十八 我、も、
 三十九 我、も、
 四十 我、も、
 四十一 我、も、
 四十二 我、も、
 四十三 我、も、
 四十四 我、も、
 四十五 我、も、
 四十六 我、も、
 四十七 我、も、
 四十八 我、も、
 四十九 我、も、
 五十 我、も、
 五十一 我、も、
 五十二 我、も、
 五十三 我、も、
 五十四 我、も、
 五十五 我、も、
 五十六 我、も、
 五十七 我、も、
 五十八 我、も、
 五十九 我、も、
 六十 我、も、
 六十一 我、も、
 六十二 我、も、
 六十三 我、も、
 六十四 我、も、
 六十五 我、も、
 六十六 我、も、
 六十七 我、も、
 六十八 我、も、
 六十九 我、も、
 七十 我、も、
 七十一 我、も、
 七十二 我、も、
 七十三 我、も、
 七十四 我、も、
 七十五 我、も、
 七十六 我、も、
 七十七 我、も、
 七十八 我、も、
 七十九 我、も、
 八十 我、も、
 八十一 我、も、
 八十二 我、も、
 八十三 我、も、
 八十四 我、も、
 八十五 我、も、
 八十六 我、も、
 八十七 我、も、
 八十八 我、も、
 八十九 我、も、
 九十 我、も、
 九十一 我、も、
 九十二 我、も、
 九十三 我、も、
 九十四 我、も、
 九十五 我、も、
 九十六 我、も、
 九十七 我、も、
 九十八 我、も、
 九十九 我、も、
 一百 我、も、

リ 羅二〇六章〇十二
 リ 羅二〇五章十一、
 二章二〇三
 二章二〇二
 二章二〇一
 二章二〇〇
 二章一九九
 二章一九八
 二章一九七
 二章一九六
 二章一九五
 二章一九四
 二章一九三
 二章一九二
 二章一九一
 二章一九〇
 二章一八九
 二章一八八
 二章一八七
 二章一八六
 二章一八五
 二章一八四
 二章一八三
 二章一八二
 二章一八一
 二章一八〇
 二章一七九
 二章一七八
 二章一七七
 二章一七六
 二章一七五
 二章一七四
 二章一七三
 二章一七二
 二章一七一
 二章一七〇
 二章一六九
 二章一六八
 二章一六七
 二章一六六
 二章一六五
 二章一六四
 二章一六三
 二章一六二
 二章一六一
 二章一六〇
 二章一五九
 二章一五八
 二章一五七
 二章一五六
 二章一五五
 二章一五四
 二章一五三
 二章一五二
 二章一五一
 二章一五〇
 二章一四九
 二章一四八
 二章一四七
 二章一四六
 二章一四五
 二章一四四
 二章一四三
 二章一四二
 二章一四一
 二章一四〇
 二章一三九
 二章一三八
 二章一三七
 二章一三六
 二章一三五
 二章一三四
 二章一三三
 二章一三二
 二章一三一
 二章一三〇
 二章一二九
 二章一二八
 二章一二七
 二章一二六
 二章一二五
 二章一二四
 二章一二三
 二章一二二
 二章一二一
 二章一二〇
 二章一一九
 二章一一八
 二章一一七
 二章一一六
 二章一一五
 二章一一四
 二章一一三
 二章一一二
 二章一一一
 二章一一〇
 二章一〇九
 二章一〇八
 二章一〇七
 二章一〇六
 二章一〇五
 二章一〇四
 二章一〇三
 二章一〇二
 二章一〇一
 二章一〇〇
 二章九九
 二章九八
 二章九七
 二章九六
 二章九五
 二章九四
 二章九三
 二章九二
 二章九一
 二章九〇
 二章八九
 二章八八
 二章八七
 二章八六
 二章八五
 二章八四
 二章八三
 二章八二
 二章八一
 二章八〇
 二章七九
 二章七八
 二章七七
 二章七六
 二章七五
 二章七四
 二章七三
 二章七二
 二章七一
 二章七〇
 二章六九
 二章六八
 二章六七
 二章六六
 二章六五
 二章六四
 二章六三
 二章六二
 二章六一
 二章六〇
 二章五九
 二章五八
 二章五七
 二章五六
 二章五五
 二章五四
 二章五三
 二章五二
 二章五一
 二章五〇
 二章四九
 二章四八
 二章四七
 二章四六
 二章四五
 二章四四
 二章四三
 二章四二
 二章四一
 二章四〇
 二章三九
 二章三八
 二章三七
 二章三六
 二章三五
 二章三四
 二章三三
 二章三二
 二章三一
 二章三〇
 二章二九
 二章二八
 二章二七
 二章二六
 二章二五
 二章二四
 二章二三
 二章二二
 二章二一
 二章二〇
 二章一九
 二章一八
 二章一七
 二章一六
 二章一五
 二章一四
 二章一三
 二章一二
 二章一一
 二章一〇
 二章九
 二章八
 二章七
 二章六
 二章五
 二章四
 二章三
 二章二
 二章一

ハ主なり 然ハ主の來らんとすまで時いまだ至らざる間ハ審判する勿れ
 主ハ幽暗なる情を照し心の計謀を顯さん其時おの神より譽
 を得べし 兄弟よ我なんぢらの爲ハ此等の事を我どアボロハ比へたり此
 ハ我儕の事より爾曹をして録されし所ハ過て人を思議べからざる事を
 學ハせ彼ハ從ハんとて之ハ逆ハ各誇とナからしめんためなり 爾をし
 て人ハ異ならしむる者ハ誰ぞ爾ハ何の受領ざる物を有カ若こそを受領ハ
 何ぞ受領ざる如く誇ヤハ爾曹すでお飽なんぢら既ハ富リ爾曹われど僭ナ
 らずして王たり我實ハ爾曹が王たらん事を願ハ蓋われも爾曹ど僭ハ王た
 らんが爲なり 我われ意ムハ神ハ我儕使徒を死ハ定られし者の如く末の者
 として顯シ給へり蓋われらハ宇宙のもの即ち天の使および人々ハ觀玩ハ
 せられたれば也 我儕ハキリストの爲ハ愚なる者となり 爾曹ハキリスト
 小在テ智キ者となり我儕ハ弱ク爾曹ハ強シ爾曹ハ貴ク我儕ハ賤シ 今
 の時お至るまで我儕ハ飢マタ渴マタ裸マタ挫れ斯て定れる住處ハ 十二 野

リ 羅二〇六章〇十二
 リ 羅二〇五章十一、
 二章二〇三
 二章二〇二
 二章二〇一
 二章二〇〇
 二章一九九
 二章一九八
 二章一九七
 二章一九六
 二章一九五
 二章一九四
 二章一九三
 二章一九二
 二章一九一
 二章一九〇
 二章一八九
 二章一八八
 二章一八七
 二章一八六
 二章一八五
 二章一八四
 二章一八三
 二章一八二
 二章一八一
 二章一八〇
 二章一七九
 二章一七八
 二章一七七
 二章一七六
 二章一七五
 二章一七四
 二章一七三
 二章一七二
 二章一七一
 二章一七〇
 二章一六九
 二章一六八
 二章一六七
 二章一六六
 二章一六五
 二章一六四
 二章一六三
 二章一六二
 二章一六一
 二章一六〇
 二章一五九
 二章一五八
 二章一五七
 二章一五六
 二章一五五
 二章一五四
 二章一五三
 二章一五二
 二章一五一
 二章一五〇
 二章一四九
 二章一四八
 二章一四七
 二章一四六
 二章一四五
 二章一四四
 二章一四三
 二章一四二
 二章一四一
 二章一四〇
 二章一三九
 二章一三八
 二章一三七
 二章一三六
 二章一三五
 二章一三四
 二章一三三
 二章一三二
 二章一三一
 二章一三〇
 二章一二九
 二章一二八
 二章一二七
 二章一二六
 二章一二五
 二章一二四
 二章一二三
 二章一二二
 二章一二一
 二章一二〇
 二章一一九
 二章一一八
 二章一一七
 二章一一六
 二章一一五
 二章一一四
 二章一一三
 二章一一二
 二章一一一
 二章一一〇
 二章一〇九
 二章一〇八
 二章一〇七
 二章一〇六
 二章一〇五
 二章一〇四
 二章一〇三
 二章一〇二
 二章一〇一
 二章一〇〇
 二章九九
 二章九八
 二章九七
 二章九六
 二章九五
 二章九四
 二章九三
 二章九二
 二章九一
 二章九〇
 二章八九
 二章八八
 二章八七
 二章八六
 二章八五
 二章八四
 二章八三
 二章八二
 二章八一
 二章八〇
 二章七九
 二章七八
 二章七七
 二章七六
 二章七五
 二章七四
 二章七三
 二章七二
 二章七一
 二章七〇
 二章六九
 二章六八
 二章六七
 二章六六
 二章六五
 二章六四
 二章六三
 二章六二
 二章六一
 二章六〇
 二章五九
 二章五八
 二章五七
 二章五六
 二章五五
 二章五四
 二章五三
 二章五二
 二章五一
 二章五〇
 二章四九
 二章四八
 二章四七
 二章四六
 二章四五
 二章四四
 二章四三
 二章四二
 二章四一
 二章四〇
 二章三九
 二章三八
 二章三七
 二章三六
 二章三五
 二章三四
 二章三三
 二章三二
 二章三一
 二章三〇
 二章二九
 二章二八
 二章二七
 二章二六
 二章二五
 二章二四
 二章二三
 二章二二
 二章二一
 二章二〇
 二章一九
 二章一八
 二章一七
 二章一六
 二章一五
 二章一四
 二章一三
 二章一二
 二章一一
 二章一〇
 二章九
 二章八
 二章七
 二章六
 二章五
 二章四
 二章三
 二章二
 二章一

りて手づから工をなし言らんとすハ祝し奢らんとすハ忍三 謂らんとす
 どきハ勸をなせり我儕今お至るまで世の汚穢また萬の物の塵垢の如し 十
 我なんぢらを愧しめん爲ハ之を書キ非ず反て我が愛する兒女の如ク爾曹
 を做めんとして也 爾曹キリスト小在テ縱ハ師ハ一萬ありとも父ハ多くわ
 ることなし蓋われキリストイエス小在テ福音を以テ爾曹を生ハなり 十六
 故ハ我なんぢらが我儕傲んことを勸るなり 十七 此ハ縁て我が愛子小在テ
 忠なるヲモテを我なんぢらお遣せり彼ハ我キリスト小在テ教るとこそ即
 ち遍ク教會ごとキ教る模範を爾曹ハ記憶さすべし 爾曹の中われを爾曹
 小至らずとして自ら誇る者あり 然終主の心ハ適ハ我速カハ爾曹ハ至
 り誇る者の其言ハ非ず其能を知んとして 三十三 ハ神國ハ言ハ非ず能ハ在
 パナリ 三 爾曹ハ非ず其能を以テ我なんぢらお至ることを願ハ乎ばた
 愛と柔和の心を以テ至ることを願ハ乎 乎
 註 五 爾曹の中お委送わりと常お開キ其委送ハ異邦人の中お非ざる故
 自十三至五章一節 哥林多前書第五章 四百七十一

イ 利八〇八
 ウ 四三〇五
 エ 利八〇六
 オ 利八〇六
 カ 本八〇六至八〇八代
 キ 廿〇三
 ク 前二世
 コ 利八〇六
 サ 加五〇九至七〇五
 シ 五〇四
 ス 加十六〇三、四四〇七至
 セ 可八〇五、八〇二、一
 タ 前四〇七
 チ 前五〇五、一、二、三、四、五
 ツ 前四〇七
 テ 前四〇七

二 心の事をして人その父の妻を有と開ゆ = ならんから誇るか斯る事を行ひし者
 三 の爾曹の中より驅けられんことを願て痛哭ざる乎 = われ身ハ爾曹の中ハ
 居ずと雖も靈ハ居り我をるが如く既ハ之を行ひし者を審判たり 即ち我
 儕の主イエスキリストの名ハ爾曹の集らんとき我靈も偕ハ在て我儕
 の主イエスキリストの能ハ託かくの如き者をサタンハ交し其肉體を滅
 し其靈をして主イエスの日本救を得しめんぞ定たるなり 爾曹の誘るハ
 宜ろしからず少許の麴酵の全團をみな發すを知ざる乎 爾曹ハ麴酵ナ
 きが如き者なれば舊き麴酵を除きて新しき團塊となるべし 夫われらの逾
 越すないちキリストハ既に宰れ給へり 然ハ我儕舊き麴酵を用ふ事ハ惡
 毒と暴很の麴酵を用ふ眞實と至誠なる無麴酵を用ゐて節を守るべし
 九 われ爾曹ハ姦淫を行ふ者也 偕に交る勿れど既に書遣れり 然此世の淫
 を行ふ者またハ貪婪者またハ勒索者またハ偶像を拜む者也 交ることを全く
 十一 禁するハ非ず若しからば爾曹ハ世を離れざる可らず 我ならんからに書

イ 樓三〇六、七、八、九、十、十一
 ロ 四〇五
 ハ 前六〇一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

二 遺しハ兄弟と稱ふる者もし淫を行ひ又ハ貪婪またハ偶像を拜またハ詭譎
 三 又たハ沉湎またハ勒索をせよ之と共ハ交ることなく斯る者と共ハ食する
 四 ことだハ爲ざらしめんぞ也 三 外ハ亦ある者ハ神之れを鞠く斯る惡人ハ之
 五 爾曹の中より驅くべし
 六 爾曹のうち互ハ事あるとき聖徒の前ハ認る事をせず敢て義からざ
 七 る者の前ハ認ることをする者ハ平 = ならんから聖徒の世を鞠んとするを知
 八 らんや世もし爾曹ハ鞠るゝからば爾曹至小キ事を鞠ふ足ざる者からん
 九 乎 爾曹われらが天の使を鞠んとするを知ざらんや況や此世の事をや
 十 是故ハ爾曹もし此世のこの事を鞠んとせば教會の中ハて卑微者を審判の座
 十一 にお坐しめん 我ならんから愧しめんぞ也 如此いへり 爾曹の中ハ其兄弟の
 十二 間の事を鞠き得る智者一人もなからん乎 然と兄弟と兄弟相誣へ且て
 十三 之を不信者の前ハて爲り 七 爾曹たがハ相誣るハより 爾曹のうち誠に

三 脚五〇九章一節五
三 五五節二〇五
ホ 羅六〇七章九節二〇
一 三二
ハ 脚五〇九章七節一四
チ 脚三〇四章七節一四
ニ 脚八〇四章七節一三
ヲ 脚九〇七章一四節一七
リ 脚四〇三章七
カ 脚五〇七章一三
ニ 脚六〇四章八節一四
ク 脚四〇二章五節一五

九八 過あり爾曹何ん此よりも寧ろ不義を受ざるや何ん此よりも寧ろ不義を受けざる乎 噫あんぢら不義をなし欺をなす兄弟も亦これを行ひんらん
義からざる者の神の國を嗣ごことを得ざるを知らざるか爾曹みづから欺勿れ
凡て淫を行ひ又ハ偶像を拜まつたハ姦淫をなし又ハ男娼ども又ハ男色を
行ひ又ハ盜竊まつたハ貪婪まつたハ沉湎まつたハ辱まつたハ勒索者なすハ皆
神の國を嗣ごことを得ざる也 爾曹のうち前にハ此の如き者ありしかども
主イエスの名に願かつ我儕の神の靈本因て洗滌まつた標も又義と爲ごことを
得たり 〇凡の物われお可らざるかし然て凡て益あるお非ず凡の物われ
お可らざるかし然て我らの一をも我が主とあささず 十三 食ハ腹のため腹ハ食
の爲なり然て神ハ此も彼も滅すべし身ハ淫を行ふためお非ず主の爲なり
主はまた身の爲なり 十四 神すでお主を興らせ給ふ又その能力を以て救済を
も興らすべし 十五 爾曹の身ハキリストの肢なるを知らざるか我キリストの肢
を娼妓の肢となして可らんや可らざるあり 十六 娼妓お合ものハ彼と一の體

レ 脚二〇四章九節一五
ク 脚二〇二章一
子 脚五〇八章一
子 脚三〇七章一
ヲ 脚一〇七章一
上 脚一〇六章一節一八
ノ 脚五〇二章一
ホ 脚二〇六章一節一四
ヤ 脚八〇八章一
セ 脚八〇八章一節一五

七 七 となるを知らざるか蓋二人のもの一昧とあるべしと云給ひたれば也 七 七 主に
六 六 合ものハ一靈とあるあり 六 六 あんぢら淫を避よ人の凡て行ふ罪ハ身の外お
九 九 あり然て淫を行ふ者ハ己が身を犯すあり 九 九 爾曹の身ハ爾曹が神より受た
る爾曹の衷おある聖靈の殿にして爾曹ハ爾曹の属に非ざる事を知らざる平
二十 二十 子そハ爾曹ハ憐れをもて買れたる者おあり是故お神のものおある爾曹身
お於ても靈魂お放ても神の榮を顯すべし
二 二 爾曹 かんぢら我お書遣し事おついでハ男の女お近ざるを善とす 二 然て
三 三 淫行を免るゝ爲に人おの 三 其妻をもち女も各々其夫を有べし 三 夫ハ
四 四 其分を妻おあさすべし妻ハまた夫お然すべし 四 妻ハ自ら其身を主とるごこと
を得ず夫これの主とる此の如く夫も自ら其身を主とるごことを得ず妻これ
を主とる 五 相共お拒なかれ然て互に意を合せて聖く祈禱の爲に別るゝハ
よし後また共お合べし是サタン爾曹の情の禁ざるに乘じて爾曹を誘ハる
らん爲あり 六 然て我これの言ハ命するお非ず許なり 七 我ハ衆人の我ごこと

本五〇三

標五〇三十四

可〇三

本五〇三十四

標二〇

標十〇三十四

標三〇

と爲んことを願ふ然れども各々神より己の賜を受たり此の如く彼の
 如しハ我のまだ嫁せざる者および養婦ハ云ん若わが如くして居れば
 亦善あり九若みづから制ること能はずハ婚姻するも可なり婚姻するハ胸
 の爛るまより愈れば也+われ婚姻せし者ハ命ヲ妻ハ夫ハ別るゝ勿れ如此
 命ずるハ我ハ非ず即ち主なり+若わが如く事わらハ嫁す居か或は夫と和
 ふことをすべし夫も妻を去べからざる外の人ハ我れをいふ主
 の言に非ず若し兄弟不信あるとき妻どもに居んことを願ハ
 之を去なかれ+妻ハ婦不信なる夫と有るとき夫どもに居んことを願ハ
 之を去なかれ+若し夫ハ不信なり妻ハ由て潔なり不信ある妻ハ由て
 潔なればなり然らずバ爾曹の子ハ潔ならず然今ハ潔き者あり+不信者み
 づから離去バ其離るゝも任せし此の如き事わらバ兄弟わらハ姉妹つ
 がるゝ所なし神の我儕を召給へるハ我儕を睡し居しめん爲なり+妻ハ
 爾いかに夫を救ふことを得や否を知ん夫ハ爾いかに妻を救ふことを得や

七

否やを知らん七然れども神の各人に預りたる所の各人を召どころハ循ひ

六

て此の如く行ふべし我すべての教會も定たるも此の如し+六割禮ありて召

五

れたる者ハ割禮を廢る勿れ割禮なくして召れたる者ハ割禮を受ける勿れ

四

割禮を受けるも何の得ことなく割禮を受ざるも何の得ことなし得どころハ

三

愛べし三召れて主に在る奴隸ハ主もつける自主なる者なり此の如く召れ

三

し自主の者ハキリストの奴隸なり三爾曹ハ價をりて買れたる者なり人の

二

奴隸となる勿れ三兄弟も各々召れし時ハ在所の分を止りて神に備に居

一

べし三處女の事ハついでハ我の命を受ず然れども我の命を受ず

一

りて忠義なる者ども爲たれば我が意を述べし三今の災に因て我婚姻せざる

一

を善とす此の如くなる人に善くならん者ならん妻に繋るゝ者ならん然らば釋て

一

とを求めん勿れ爾妻の繋なき者なるか然らば妻を求めん勿れ三爾もし繋ると

本五〇三

標五〇三十四

可〇三

本五〇三十四

標二〇

標十〇三十四

標三〇

と爲んことを願ふ然れども各々神より己の賜を受たり此の如く彼の
 如しハ我のまだ嫁せざる者および養婦ハ云ん若わが如くして居れば
 亦善あり九若みづから制ること能はずハ婚姻するも可なり婚姻するハ胸
 の爛るまより愈れば也+われ婚姻せし者ハ命ヲ妻ハ夫ハ別るゝ勿れ如此
 命ずるハ我ハ非ず即ち主なり+若わが如く事わらハ嫁す居か或は夫と和
 ふことをすべし夫も妻を去べからざる外の人ハ我れをいふ主
 の言に非ず若し兄弟不信あるとき妻どもに居んことを願ハ
 之を去なかれ+妻ハ婦不信なる夫と有るとき夫どもに居んことを願ハ
 之を去なかれ+若し夫ハ不信なり妻ハ由て潔なり不信ある妻ハ由て
 潔なればなり然らずバ爾曹の子ハ潔ならず然今ハ潔き者あり+不信者み
 づから離去バ其離るゝも任せし此の如き事わらバ兄弟わらハ姉妹つ
 がるゝ所なし神の我儕を召給へるハ我儕を睡し居しめん爲なり+妻ハ
 爾いかに夫を救ふことを得や否を知ん夫ハ爾いかに妻を救ふことを得や

七	ウ	約一〇三	一〇六	七
八	ノ	非	十四	七
九	カ	非	十四	七
十	ヤ	非	十四	七
十一	ハ	非	十四	七
十二	ク	非	十四	七
十三	ケ	非	十四	七
十四	コ	非	十四	七
十五	カ	非	十四	七
十六	キ	非	十四	七
十七	ク	非	十四	七
十八	ケ	非	十四	七
十九	コ	非	十四	七
二十	カ	非	十四	七

七 萬物これ自由われらも自由なり然るにみな斯る事を知す今亦至りて尙心
 小偶像を願ふ之を偶像お獻し物と意て食する者あり是故わその心弱して
 汚るゝなりハ神と我儕の關係ハ食物自由非食するも益ることなく食
 せざるも損ることなし然るに爾曹憤みて其自由を柔弱者の躓とす勿れ
 人もし知識ある所の爾偶像の廟お坐して食するを見バ柔弱者の心之小
 糊られて偶像お獻し物を食せざらん平又キリストの代て死たまひし弱
 き兄弟爾の知識に因て淪亡ざらん平此の如く爾曹兄弟に罪を犯し其弱
 き心を傷めしむるハキリストお罪を犯すなり是故わ若し食物わが兄弟
 を礙かせバ我ハ兄弟を礙かせざる爲永永久も肉を食ハシ
 我ハ使徒に非ずや我ハ自主に非ずや我ハ我儕の主イエスキリスト
 を見しお非ずや爾曹が主に在ハ我が工に非ずやわれ他人ハ使徒に非
 すとも爾曹にハ使徒なり蓋なんぢらの主お在ハ我使徒の職の印なれば也
 三 我こそを詰す者お答ふるハ此なりわれら飲食を受ける權なき平われ

七	キ	本二〇四	六	七
八	メ	約一〇四	六	七
九	ミ	非	六	七
十	ニ	本二〇六	七	八
十一	ノ	非	六	七
十二	ハ	非	六	七
十三	カ	非	六	七
十四	コ	非	六	七
十五	ケ	非	六	七
十六	キ	非	六	七
十七	ク	非	六	七
十八	ケ	非	六	七
十九	コ	非	六	七
二十	カ	非	六	七

ら他の使徒等および主の兄弟とクバどの如く姉妹なる妻を携ふる權なき
 平惟われババルナバのみ工を止る事を得ざらん平誰か單お出己の
 財を費す者あらんや誰か葡萄園を樹て其果を食ざる者あらんや誰か羊を
 牧て其乳を飲ざる者あらん平ハわれ人の事かのみ循て之を言んや律法も
 亦かく言わ非ずやモーセの律法お獻物を碾す牛に口籠を繋べからずと
 録されたり神牛の爲お慮かり給へる平又ハ我等の爲にのみ之を言たま
 ひし平之ハ我等の爲お慮し給へる地ウハ刺と者ハ望わりて耕し穀物を碾
 す者ハ其穀物を得の望ありて碾ハ宜なれば也我等もし爾曹の爲お靈の
 物を播たらバ爾曹の肉の物を獲取り大事ならん平其他の人もし此權威を
 爾曹の上お有バ況て我儕をや然るに我儕この權威を用きキリストの福音お
 阻隔なきやうお我儕すべての事を忍ぶ士なんぢら知ざらばか理事を務る者
 ハ殿の物を食し祭壇お事する者ハ祭壇と共お其額を取て之を十四此の如く主
 福音を宣傳る者ハ福音に由て生活んことを定め給へり然るに我此等の事

ハ一をも用す亦かくの如くせられん爲に之を書遣るに非蓋わが誇る所
 を人に虚くせられんよりハ譬ハ死るハ我ハ善事なれば也ハわれ福音を宣
 傳ると雖も誇るべき所なし已を得ざるなり若われ福音を宣傳ハすハ實ハ
 禍なり若われ好て之を行ハ實を得ん若われ好ざるも其責任ハ我に與レ
 り然らバ我が實は何なる耶われ福音を宣傳するハ人をして費なくキリス
 トの福音を得しめ又福音に在て我有る權を安用する即ち是なり九われ
 衆の人本向て自主の者なれば更ハ多の人を得ん爲に自ら己を衆の人の奴
 隷となせりニユダヤ人ハ我ニユダヤ人の如くなれも此ニユダヤ人を得ん爲
 なり又律法の下に在る者ハ我律法の下に在ざればも律法の下に在る者
 の如くなれり是律法の下に在る者を得ん爲なりニ律法なき者ハ我律法
 なき者の如くなれり是律法なき者を得ん爲なり然レ我神ハ向て律法なき
 ハ非ず即ちキリストの律法の下に在なりニ柔弱者ハ我柔弱者の如くな
 れり是柔弱者を得ん爲なり又すべての人ハ我の凡の人の状ハ循へり

非 耶五〇九節四〇代

ハ 提新五〇二節四〇代

チ 馬精七節三

リ 傳六〇三二二節五

又 加二〇三節五十二至十四

ハ 羅〇二二節五十五

チ 羅十五〇二

三三

三一

リ 卑二〇代

カ 聖一〇四節三二〇

三五

三 徒前一〇四節四〇四二〇

三六

又 羅八十三節三〇代

三七

リ 申五〇三二二節九

二

リ 民四〇八節三十三

四

カ 申二〇六

七

是いかにもして彼等數人を救ハ爲なりニわれ福音の爲に如此おこさふハ
 人と共に福音に與らん爲なりニ亦人ならず知亦ハ馳擲に趨るものハ皆はし
 れども褒美を得者ハ唯一人なるを爾曹も得ん爲に趨るべしニ凡て勝を競
 ぶ者ハ何事をも節ハ謹む亦り彼等ハ壞れ易き冕を得ん爲に之を行ハ我
 儼ハ壞ざる冕を得ん爲ハ爲わ之を行ふ亦り然レ我ハ趨るハ定向なきが如
 きに非ず我ハ戰ハ空を撃が如きに非ニ己の體を撃て之を服せしむ蓋彼
 かの人を教て自ら棄られんことを恐れバ也
 兄弟弟よ我などちらが左の事を知ざるを欲まず夫われらの先祖ハみ
 赤雲の下に在みな悔を過ニみ亦雲と海にてバナスマヤを受けてモーセに屬
 りニ皆おほしく靈の食物を食しニみな同く靈の飲物を飲り此かれらに從
 へる靈の譬より飲たる也その譬ハ即ちキリスト亦り然レ彼等の中おほ
 くハ神の心に適ざるが故に野にて滅されたりニ此等の事ハ我儼をして彼
 等が嗜し如く惡を嗜ざらしむる我儼の譬亦り七民ハ坐して飲食し起て舞

同に享れべなり^{十六} 肉を屬するイスラエルの人を觀よ 祭物を食する祭壇に
 與る者に非ずや^{十五} 然れバ我にいへる事ハ何ぞや 偶像ハ有ものと言るか 然らず
 偶像に獻し物ハ有ものと言るか 然らず^{十四} 我いはん異邦人の獻る物ハ神に
 獻るに非ず 惡鬼に獻るなり 我になんがらが惡鬼と交るを欲ま^{十三} になんぢら
 主の杯と惡鬼の杯とを兼飲こと能はず 主の筵と惡鬼の筵とに兼任る能ハ
 ず 三われら主の嫉妬を激ざんとする乎 われら主よりも強き者ならん乎^{十二}
 凡の物われも可らざるなし 然だ凡のもの益あるに非ず 凡の物われに可ら
 ざるなし 然だ凡のもの徳を建るに非ず^{十一} 人みな己の益を求るなく 各人
 の益を求べし^十 凡て市に鬻ものハ良心の爲に問とをせずして食すべし 其
 ろハ地と之に盈る物ハ主の屬なれば也^九 爾曹もし不信者に請かれて往ん
 とせ ば凡て爾曹の前に陳る物を良心の爲に問とをせずして食すべし 三
 もし人ならに此ハ偶像に獻し物なりと云 ば告し者の爲また良心の爲
 に之を食する勿れ 蓋地と之に盈る物みな主の屬なれば也^八 良心とハ爾曹

六 七
八 九
十 十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

り 録されたる如く 彼等のうち 或者の行しに 倣て 爾曹偶像を拜者と 亦る
 勿れ 八 或は 彼等のうち 或者 姦淫を行ひ 一日に 二萬三千人 死たり 彼等に 倣
 て 我儕 姦淫すべからず 又 かれらの 中 亦るもの キリストを試みて 蛇に 滅
 されたり 彼等に 倣て 我儕も 試みて べからず 又 彼等の中 亦るもの 怨言 亦 かれ
 滅す者 亦 滅されたり 彼等に 倣て 爾等も 怨言 亦 かれ 遇ふ者 此すべ
 の事 亦 察されり 且 これらの事 録されたるハ 末世に 遇る 我儕を 警むる
 爲 亦 然らば 自ら 立ち 立り 意人 者ハ 傾ざるや 抑 爾曹が 遇し 試
 惑ハ 人の 常 亦らざるハ なく 神ハ 信ある者 亦り 爾曹を 耐忍 ぶこと 能ざる 試
 惑に 遇せし 爾曹が 其 試惑を 耐忍 ぶこと 能ざる 爲に 其に うち 遇るべき 途を
 備へ 給ふべし 然れバ 我が 愛する 者ハ 偶像を 拜する 事を 避べし 且 われ 智者
 而言 ぶと 言 人 爾曹わが 言と 之を 審判 べし 我儕が 祖 なる所の 祀 杯ハ
 同に キリストの 血を 享るに 非ず 亦 我儕が 孽所の パンハ 同に キリストの 體
 を 享るに 非ず 平 ば ンハ 唯一 亦り 多の 我儕も 又 一體 亦り 蓋 皆一の パンを

六 七
八 九
十 十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

の良心に非ず他の人の良心を言なり如何んぞ他の人の良心に我自由を奪
 判るゝことを爲んや三若われ感謝して食するを爲ん何ぞ其感謝する
 所のものに縁て譲らるゝことを爲んや三然バ爾曹食ふにも飲にも何事を
 行ふにも凡て神の榮を顯すやうを行ふべし三エグヤ人をもギリシヤ人を
 も亦神の教會をも穢かする勿れ三即ち我すべての事に於て衆の人の心に
 適ふやうにし彼等が救れん爲に己の益を求ず許多の人の益を求るが如く
 すべし

我キリストに效ふ如く爾曹われに效ふべし三兄弟よ爾曹すべ
 ての事に於て我を記念かつ我なんぢらに傳へし如く其傳を守るに因て我
 なんぢらを嘉凡の人の首ハキリストなり女の首ハ男赤りキリストの首
 ハ神赤りど爾曹が知んてを願ふ凡て男ハ首ハ物を蒙りて祈禱をさし
 或ハ預言する時の其首を辱しむる也凡て女ハ首に物を蒙らずして祈禱を
 さし或ハ預言する時の其首を辱しむるあり此ハ雜髪と一にして異てど赤

チ 四三〇七

ヲ 四三〇八

ル 四三〇九

チ 四三〇六

ニ 四三〇七

ニ 四三〇八

ニ 四三〇九

ニ 四三〇六

ニ 四三〇七

ニ 四三〇八

ニ 四三〇九

ニ 四三〇六

ニ 四三〇七

ニ 四三〇八

ニ 四三〇九

し女もし物を蒙らずバ髪を剪べし然だ髪を剪またた雄てど若し女の耻べき
 ことならバ物を蒙るべし男ハ神の像と榮なれば其首ハ物を蒙るべから
 ず女ハ男の榮なり夫の男ハ女より出しに非ず女ハ男より出たれば也九
 夫ハ男ハ女の爲に造られしに非ず女ハ男の爲に造られし也十是故に女ハ
 天使の故に縁て首に權を有べき者なり十一然だ主に在てハ男ハ女に由る
 ことなく女ハ男に由ることなし十二女の男より出し如く男ハ女に由て出
 ずかして萬物みな神より出るなり十三爾曹みづから辨ふべし女物を蒙らず
 して神に祈るハ宜きことなる乎十四男もし長髪を蒙らば恥べきこと也十五爾
 曹自然に知に非ずや十五然だ女もし長髪を蒙らば其榮なり蓋かむりもの
 代に髪を賜ひたれば也十六縦ハ争ひ論する者ありども此の如き例ハ我儕に
 も亦神の教會にも有ることなし十七我これらの事を命じて爾曹を嘉ざるハ
 爾曹の聚會を受ずして反て損を招けバ也十八先なんぢら教會に集るとは
 其うち互に争ひ分るゝこと有と聞り我略これ信せず十九ハ正き者の爾曹

ニ 四三〇七

ニ 四三〇八

ニ 四三〇九

ニ 四三〇六

ニ 四三〇七

ニ 四三〇八

ニ 四三〇九

二十の中に顯れんため異端おこらざるを得ざれば也。主ならんから一處に集るる
 主の晩餐を食するに非ず三つの食するるとき各人各自己の晩餐を食するに
 因るひに飢る者あり或り酔飽る者あり也。三ならんから飲食すべき家不
 きか神の教會を慢じ又乏者を辱しめんとする平われ何をか言ん此に因て
 爾曹を嘉べきや我ら嘉ざるなり。三我ならんからに傳し事ハ主より授られた
 る也。則主イエス賣るる夜パンを取二四祝して之を擘曰ける。取て食せよ
 此ハ爾曹の爲お擘るる我體なり。爾曹も如此おこなひて我を憶よ。三食して
 後また杯をとり前の如くして曰ける。此杯ハ我が血にして立る所の新約
 なり。爾曹も如此おこなひて飲でどに我を憶よ。三爾曹このパンを食し此杯
 を飲でどに主の死を表して其來る時までお及ぶなり。三然ハ宜に合すして
 此パンを食し主の杯を飲者ハ主の體と血を干なり。三人みづから省みて後
 其パンを食し其杯を飲べし。三宜に合すして食飲する者ハ其食飲に由て自
 ら審判を招くなり。蓋主の體を辨へざるに因テ是故に爾曹の中お弱き者病

カ 加中後三〇、
 方 彼二〇二三
 カ 後二〇四至十六
 七 一五九
 六 一五九
 五 一五九
 四 一五九
 三 一五九
 二 一五九
 一 一五九

二十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

三十一の者また獲たる者多し。三我儕もし自ら己を辨へしならバ審判を受ると無
 りしならん。然今審判せらるる主の我儕を懲しめ給ふ。亦我儕を
 して世の人と同お罪に定らるるくと無らしめん爲なり。三是故お我が兄弟よ
 集りて食せん時互に相待べし。三もし飢なバ其家にて食すべし。是爾曹の聚
 會審判を受るに至らざるらん爲なり。其汝かの事ハ我らいたらん時これを定ん
 兄弟よ。爾曹の賜について我ならんからが知ざるを欲す。三ならん
 異邦人なりしとき引誘お隨ひて言はざる偶像の下お誘れ往し。爾曹の知
 どころ也。三是故に我ならんからに示さん神の靈に感じて語る者ハイエスを
 誣ふべき者と謂ものなし。又人聖靈に感ぜざればイエスを主と謂われば
 賜ハ殊なれども靈ハ同じ。五職ハ殊なれども主ハ同じ。六また行爲ハ殊な
 れども一切の事を衆の人の中行ふ神ハ同じ。七靈の顯を各人に賜し。ハ益
 を得しめん爲なり。八或り靈によりて智慧の言を賜り或り靈によりて知
 識の言を賜り。九或り同じ靈に由て信仰を賜り或り同じ靈に由て病を醫す

カ 加中後三〇、
 方 彼二〇二三
 カ 後二〇四至十六
 七 一五九
 六 一五九
 五 一五九
 四 一五九
 三 一五九
 二 一五九
 一 一五九

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

十	能を賜り	一	或之異能を行ひ或預言し或心靈を辨へ或之方言をいひ或
十一	ハ方言を譯するの能を賜れり	十二	然也凡て此等の事を行ふ者ハ同一靈ナ
十二	り彼方の心のまゝに各人に類與るなり	十三	ハ一體の一にして多の肢あり一體の
十三	凡の肢の多けれども	十四	の體ありキリストも亦かくの如し
十四	在てバナスマをうけ	十五	の體となり又みな一の靈を飲り
十五	のみに非ず多あれ	十六	バ也足りし我手に非ざるが故に體に屬せず
十六	に因て體に屬せざる	十七	乎またた耳もし我目に非ざるが故に體に屬せず
十七	バ夫によりて體に屬せざる	十八	乎もし全自身ならバ聞てころハ安や若し
十八	全身耳ならバ嗅てころハ安や	十九	大うれ神ハ心のまゝに肢をおの
十九	置たせへり	二十	若みな一の肢ならバ體ハ安や
二十	り三目の手に我なんぢに用なし	二十一	と謂を得ず
二十一		二十二	と謂を得ず

二	體のうら尊からず	意ふ所を物を纏て我儕殊わ之を尊ぶ之に因て我儕の
三	不美とて	ろの愈て美しく爲なり
四	ハ其劣れる所	ハ殊ハ尊貴を加て體を調和たせへり
五	諸の肢	が以に相顧み扶けん爲なり
六	も	お苦み一の肢たふとバれ
七	の體	わして亦おの
八	脚の次に	異能を行ふ者次に病を醫す能を授し者救濟する者
九	言をいふ者	を教會お置たまへり
十	平み	教師からん平みな異能を行ふ者
十一	る者	ならん平みな方言をいふ者
十二	ら	至美たる賜を慕ふべし
十三	假令われ	諸の人の言および天使の言を語るども若し愛なくバ
十四	銅や響	緩の如し
十五	假令われ	預言するの能あり又すべての奧義と諸の學

十六	能を賜り	一	或之異能を行ひ或預言し或心靈を辨へ或之方言をいひ或
十七	ハ方言を譯するの能を賜れり	十八	然也凡て此等の事を行ふ者ハ同一靈ナ
十八	り彼方の心のまゝに各人に類與るなり	十九	ハ一體の一にして多の肢あり一體の
十九	凡の肢の多けれども	二十	の體ありキリストも亦かくの如し
二十	在てバナスマをうけ	二十一	の體となり又みな一の靈を飲り
二十一	のみに非ず多あれ	二十二	バ也足りし我手に非ざるが故に體に屬せず
二十二	に因て體に屬せざる	二十三	乎またた耳もし我目に非ざるが故に體に屬せず
二十三	バ夫によりて體に屬せざる	二十四	乎もし全自身ならバ聞てころハ安や若し
二十四	全身耳ならバ嗅てころハ安や	二十五	大うれ神ハ心のまゝに肢をおの
二十五	置たせへり	二十六	若みな一の肢ならバ體ハ安や
二十六	り三目の手に我なんぢに用なし	二十七	と謂を得ず
二十七		二十八	と謂を得ず

五 本七〇七世第廿六
 六 本六〇一第
 七 本三〇三
 八 本四〇八
 九 本五〇七
 十 本六〇七
 十一 本七〇七
 十二 本八〇七
 十三 本九〇七
 十四 本一〇〇七
 十五 本一一〇七
 十六 本一二〇七
 十七 本一三〇七
 十八 本一四〇七
 十九 本一五〇七
 二十 本一六〇七
 二十一 本一七〇七
 二十二 本一八〇七
 二十三 本一九〇七
 二十四 本二〇〇七
 二十五 本二一〇七
 二十六 本二二〇七
 二十七 本二三〇七
 二十八 本二四〇七
 二十九 本二五〇七
 三十 本二六〇七
 三十一 本二七〇七
 三十二 本二八〇七
 三十三 本二九〇七
 三十四 本三〇〇七
 三十五 本三一〇七
 三十六 本三二〇七
 三十七 本三三〇七
 三十八 本三四〇七
 三十九 本三五〇七
 四十 本三六〇七
 四十一 本三七〇七
 四十二 本三八〇七
 四十三 本三九〇七
 四十四 本四〇〇七
 四十五 本四一〇七
 四十六 本四二〇七
 四十七 本四三〇七
 四十八 本四四〇七
 四十九 本四五〇七
 五十 本四六〇七

三 ぬものなり 假令われ我凡ての所有を施し又燃るゝ爲に我が身を予ると
 四 も若し愛なくバ我に益なし 愛り寛忍を爲し又人の益を圖なり 愛り妬ま
 五 ず誇らず 驕傲らず 非禮を行はず 己の利を求めず 輕々しく怒らず 人の惡
 六 を念はず 不義を責はず 真理を喜び 凡る事包容はよる 事信じ 凡る事
 七 望み 凡る事忍あり 愛り永久も 墮る事なし 然も 預言り 廢り 方言り 息知 識
 八 も亦 廢らん 我 儕の 知識 全からず 預言も 全からず 全き者きたると 全
 九 全からざる者 廢るべし され 童子の時 預言ると 童子の如く 識ると 全
 十 子 童子の如く 慮ると 童子の如く なりし 成人て 童子の事を 棄たり 全
 十一 われら 今 鏡をもて 見むと 見むと 昏然なり 然も 彼の 時に 面を 對せて
 十二 相見ん 我い しま 知て 全からず 然も 彼の 時に 我が 知るゝ 如く 我を 棄らん 全
 十三 うれ 信仰と 望と 愛と 此三の 者 常に 在かり 此うち 尤も 大なる 者 愛かり
 十四 然も 愛を 追求め 全靈の 各様の 賜を 慕ふし 殊に 慕ふべき 預

一 本七〇七世第廿六
 二 本六〇一第
 三 本三〇三
 四 本四〇八
 五 本五〇七
 六 本六〇七
 七 本七〇七
 八 本八〇七
 九 本九〇七
 十 本一〇〇七
 十一 本一一〇七
 十二 本一二〇七
 十三 本一三〇七
 十四 本一四〇七
 十五 本一五〇七
 十六 本一六〇七
 十七 本一七〇七
 十八 本一八〇七
 十九 本一九〇七
 二十 本二〇〇七
 二十一 本二一〇七
 二十二 本二二〇七
 二十三 本二三〇七
 二十四 本二四〇七
 二十五 本二五〇七
 二十六 本二六〇七
 二十七 本二七〇七
 二十八 本二八〇七
 二十九 本二九〇七
 三十 本三〇〇七
 三十一 本三一〇七
 三十二 本三二〇七
 三十三 本三三〇七
 三十四 本三四〇七
 三十五 本三五〇七
 三十六 本三六〇七
 三十七 本三七〇七
 三十八 本三八〇七
 三十九 本三九〇七
 四十 本四〇〇七
 四十一 本四一〇七
 四十二 本四二〇七
 四十三 本四三〇七
 四十四 本四四〇七
 四十五 本四五〇七
 四十六 本四六〇七
 四十七 本四七〇七
 四十八 本四八〇七
 四十九 本四九〇七
 五十 本五〇〇七

二 言する事なり 二 方言を語る者 一人も 語るに 非ず 神に 語る也 三 人の 靈に 由て
 三 興義を 語るも 雖も 隨る者 なければ 也 然も 預言する者 一人に 語りて 其 德
 四 を たて 勸勉を なし 安慰を するなり 四 方言を 語る者 一人の 德を たて 預言す
 五 る者 一人の 德を 建るなり 五 われ 爾曹が みな 方言を 語る事をも 願へ 是 最
 六 も 願ふ 所の 爾曹が 預言せん 事なり 方言を 語る者 一人若し 譯して 教會の 德を
 七 建るに 非ず ば 預言する者 一人 尤も 優るなり 六 然り 兄弟よ 我も し 爾曹も 就
 八 り 只 方言を 語りて 默示 する 以り 知識 する 以り 預言 する 以り 教誨を 語らず
 九 ば 爾曹も 何の 益 ありんか 乎 七 うれ 靈なくして 聲を出すもの 或は 笛 吹る 以り
 十 琴も し 其 音 別なく ば 吹て ころ 彈て ころを 如何で 知得んや 八 も し 笛 吹た せ
 十一 り なき 聲を出さ ば 誰か 戰の 備を なさん 乎 九 此の 如く 爾曹も 舌を 以て 明か
 十二 ならざる 言を出さ ば 何で 語る 所の 事を 知得んや 此 亦 人 ちから 空氣に 語るな
 十三 り 世間の 口音の 類おほし 雖も 一として 其 義 明らか ざるなし 是 故に 若
 十四 われ 其 聲の 義を 知らせ ば 語る者に 對して 我を びす とも 語り 語る者 きた 我に

二	雅三〇二十二
三	創三〇二六、 每節十二〇三七及西三
四	一八多二〇、雅三〇
五	三
六	五
七	六
八	七
九	八
十	九
十一	十
十二	十一
十三	十二
十四	十三
十五	十四
十六	十五

神なり〇三、聖徒の諸教會の如く爾曹の婦女等も教會の中に獻すべし、彼等の語るを許さず、彼等ハ律法に云る如く順ふべき者なり、もし學んば、所あらば室に在て其夫に問べし、蓋をんな教會に於に語るハ耻べきことなれば也、三、神の道ハ爾曹より出し乎、また爾曹にのみ来りし乎、三人もし自己を預言者とし、或ハ靈に感せし者、とせば、我なんぢらに書遺ることハ主の命なりと知べし、言ひし、知ざる者、わらば、其知ざるに任すべし、然らば兄弟よ、預言すること、を慕ひ、双方言を語ること、を禁ずる勿れ、凡のこれ端正かつ、次に序に循ひて行ふべし

兄弟よ、前に我なんぢらに傳へし福音を、今また爾曹に告ぐハ、爾曹が受し、どころ之に因て立し所なり、ニ、爾曹もし我が傳へし言を固く守り、徒に信ずることなく、べ之に由て救れん、三、わが爾曹に傳へし、ハ我が受し所の、專にて、其第一ハ、即ち、聖書に應て、キリスト我儕の罪のために死、また、聖書に應て、葬られ、第三日に甦へり、五、ケバ、わ現れ、後十二の、獅子、わ現れ、給へること

六、如此、あら、れ、給、る、ち、五、百、の、兄、弟、の、共、に、在、り、と、き、亦、こ、れ、に、現、れ、給、へ、り、其、兄、弟、の、ち、も、多、ハ、今、な、世、に、わ、り、然、也、も、既、に、寢、た、る、者、も、わ、り、也、此、後、ヤ、コブに現れ、又、す、べ、て、の、使、徒、に、現、れ、ハ、最、後、に、月、た、ら、ぬ、者、の、如、き、我、に、も、現、ハ、れ、給、へ、り、蓋、わ、れ、神、の、教、會、を、追、害、せ、し、故、に、使、徒、と、稱、ふ、る、に、足、り、ざる、者、に、し、て、使、徒、の、中、に、至、微、者、な、れ、べ、也、然、恐、我、か、く、の、如、か、る、を、得、し、ハ、神、の、恩、に、由、て、な、り、我、に、賜、し、神、の、恩、ハ、徒、然、か、ら、ず、我、ハ、衆、の、使、徒、よ、り、も、多、く、勞、た、り、此、ハ、我、に、非、ず、我、と、偕、に、在、る、神、の、恩、な、り、十、是、故、に、我、も、彼、等、も、此、の、如、く、宣、傳、へ、爾、曹、も、亦、か、く、の、如、く、信、じ、り、〇、二、キ、リ、ス、ト、ハ、死、よ、り、甦、り、し、と、宣、傳、る、に、爾、曹、の、ち、死、よ、り、甦、る、こ、と、無、と、い、ふ、者、わ、る、ハ、何、ぞ、や、三、死、よ、り、甦、る、こ、と、な、く、

バキリストも亦甦らざりしならん、十四、キリストも甦らざりしなら、べ、我、儕、の、宣、る、と、こ、ろ、徒、然、ま、た、爾、曹、が、信、仰、も、徒、然、か、ら、ん、十五、且、わ、れ、ら、神、は、爲、に、妄、決、證、を、す、る、者、と、な、ら、ん、我、儕、神、ハ、キ、リ、ス、ト、を、甦、ら、し、し、と、證、す、れ、ば、也、も、し、死、し、者、よ、み、が、へ、る、事、な、く、バ、神、キ、リ、ス、ト、を、甦、ら、し、し、む、る、事、な、か、る、べ、し、去、り、し、死、し、

六	六
七	七
八	八
九	九
十	十
十一	十一
十二	十二
十三	十三
十四	十四
十五	十五
十六	十六

六、**と、也、**六、如此、あら、れ、給、る、ち、五、百、の、兄、弟、の、共、に、在、り、と、き、亦、こ、れ、に、現、れ、給、へ、り、其、兄、弟、の、ち、も、多、ハ、今、な、世、に、わ、り、然、也、も、既、に、寢、た、る、者、も、わ、り、也、此、後、ヤ、コブに現れ、又、す、べ、て、の、使、徒、に、現、れ、ハ、最、後、に、月、た、ら、ぬ、者、の、如、き、我、に、も、現、ハ、れ、給、へ、り、蓋、わ、れ、神、の、教、會、を、追、害、せ、し、故、に、使、徒、と、稱、ふ、る、に、足、り、ざる、者、に、し、て、使、徒、の、中、に、至、微、者、な、れ、べ、也、然、恐、我、か、く、の、如、か、る、を、得、し、ハ、神、の、恩、に、由、て、な、り、我、に、賜、し、神、の、恩、ハ、徒、然、か、ら、ず、我、ハ、衆、の、使、徒、よ、り、も、多、く、勞、た、り、此、ハ、我、に、非、ず、我、と、偕、に、在、る、神、の、恩、な、り、十、是、故、に、我、も、彼、等、も、此、の、如、く、宣、傳、へ、爾、曹、も、亦、か、く、の、如、く、信、じ、り、〇、二、キ、リ、ス、ト、ハ、死、よ、り、甦、り、し、と、宣、傳、る、に、爾、曹、の、ち、死、よ、り、甦、る、こ、と、無、と、い、ふ、者、わ、る、ハ、何、ぞ、や、三、死、よ、り、甦、る、こ、と、な、く、

七	創一〇二二
エ	種一〇二二 種二〇二四
ミ	種一〇二二 種七〇三
キ	種一〇二二 種三〇三
サ	種一〇二二 種六〇三
ア	種一〇二二 種七〇三
ホ	種一〇二二 種八〇三
コ	種一〇二二 種九〇三
ク	種一〇二二 種一〇〇三
ケ	種一〇二二 種一一〇三
コ	種一〇二二 種一二〇三
サ	種一〇二二 種一三〇三
シ	種一〇二二 種一四〇三
ス	種一〇二二 種一五〇三
セ	種一〇二二 種一六〇三
ソ	種一〇二二 種一七〇三
タ	種一〇二二 種一八〇三
チ	種一〇二二 種一九〇三
リ	種一〇二二 種二〇〇三
ニ	種一〇二二 種二一〇三
ホ	種一〇二二 種二二〇三
ヘ	種一〇二二 種二三〇三
ト	種一〇二二 種二四〇三
ニ	種一〇二二 種二五〇三
ホ	種一〇二二 種二六〇三
ヘ	種一〇二二 種二七〇三
ト	種一〇二二 種二八〇三
ニ	種一〇二二 種二九〇三
ホ	種一〇二二 種三〇〇三
ヘ	種一〇二二 種三一〇三
ト	種一〇二二 種三二〇三
ニ	種一〇二二 種三三〇三
ホ	種一〇二二 種三四〇三
ヘ	種一〇二二 種三五〇三
ト	種一〇二二 種三六〇三
ニ	種一〇二二 種三七〇三
ホ	種一〇二二 種三八〇三
ヘ	種一〇二二 種三九〇三
ト	種一〇二二 種四〇〇三

七 者甦る事なくバキリストも甦ると無しならん若キリスト甦らざりしならバ爾曹は信仰の徒然ならん尙罪を居ん双キリストに在て寢たる者も沈淪しからん若キリストに由る我儕の望たよ此世れみならバ衆人の中わて尤も憐むべき者なり然然今キリスト死より甦りて寢たる者も沈淪しからん若キリストに由る我儕の望たよ此世れみならん

六 出したりミアムに属る衆人の死る如くキリストに属る衆人の死る如く

五 然然各人其次序を循ふ初ハキリストト次ハキリストト来らん

四 属する者なり後カレ諸政および諸權威を滅して國を交は神に付さん是終さる蓋カレ諸の敵を其足は下に置き置さまでハ王たらざるを得ざれば也最後に滅さる敵ハ死なり三もの刑すべての物をキリストの足下に置給へバなり萬物を其下に置りて云給るときハ萬物を其下に置どころの者ハ其内にわらざることを明かなり三萬物カレに服ふときハ子も亦みづから萬物を己に服ハしし者に服ふべし是刑すべての物は上に主

三 何の爲にせんとする乎かれら死し者の爲にバアスマを受るハ何故や

二 早や何の爲に我儕の爲に危険を居る我儕の主キリストイエスに在て

一 爾曹ハキリストが有る言をさし誓て我日々死ると言若われ人の如くエ

二 ンバ於て罰と共に罰ハしならバ何の益あらん乎も死し者甦らずバ飲

三 食するわ若す我儕明日迄ぬべき者なれば也爾曹自ら欺く勿れ惡交は

四 善行を害ふなり言ならん言ならん言ならん言ならん言ならん言ならん

五 神を知ざる者あり我かく言て爾曹を愧しむる也人あるハ人間死し

六 者いかに甦るや如何なる身體わて来る乎思なる者ハ爾が播どころの

七 種まづ死ざれば生ず又なんぢが播どころのもの將來はゆる所の體を播

八 本非ず麥にても他の穀にても只一粒のみ然るを神ハ己の意を隨ひて之を

九 體を手へ種ぞとわ其おのの形體を手へ給ふ凡の肉おなじ肉に非ず

十 人の肉あり罰の肉あり鳥の肉あり魚の肉あり天を屬る物の形體あり地

七	種一〇二二
エ	種一〇二二 種二〇二四
ミ	種一〇二二 種七〇三
キ	種一〇二二 種三〇三
サ	種一〇二二 種六〇三
ア	種一〇二二 種七〇三
ホ	種一〇二二 種八〇三
コ	種一〇二二 種九〇三
ク	種一〇二二 種一〇〇三
ケ	種一〇二二 種一一〇三
コ	種一〇二二 種一二〇三
サ	種一〇二二 種一三〇三
シ	種一〇二二 種一四〇三
ス	種一〇二二 種一五〇三
セ	種一〇二二 種一六〇三
ソ	種一〇二二 種一七〇三
タ	種一〇二二 種一八〇三
チ	種一〇二二 種一九〇三
リ	種一〇二二 種二〇〇三
ニ	種一〇二二 種二一〇三
ホ	種一〇二二 種二二〇三
ヘ	種一〇二二 種二三〇三
ト	種一〇二二 種二四〇三
ニ	種一〇二二 種二五〇三
ホ	種一〇二二 種二六〇三
ヘ	種一〇二二 種二七〇三
ト	種一〇二二 種二八〇三
ニ	種一〇二二 種二九〇三
ホ	種一〇二二 種三〇〇三
ヘ	種一〇二二 種三一〇三
ト	種一〇二二 種三二〇三
ニ	種一〇二二 種三三〇三
ホ	種一〇二二 種三四〇三
ヘ	種一〇二二 種三五〇三
ト	種一〇二二 種三六〇三
ニ	種一〇二二 種三七〇三
ホ	種一〇二二 種三八〇三
ヘ	種一〇二二 種三九〇三
ト	種一〇二二 種四〇〇三

七 者甦る事なくバキリストも甦ると無しならん若キリスト甦らざりしならバ爾曹は信仰の徒然ならん尙罪を居ん双キリストに在て寢たる者も沈淪しからん若キリストに由る我儕の望たよ此世れみならバ衆人の中わて尤も憐むべき者なり然然今キリスト死より甦りて寢たる者も沈淪しからん若キリストに由る我儕の望たよ此世れみならん

六 出したりミアムに属る衆人の死る如くキリストに属る衆人の死る如く

五 然然各人其次序を循ふ初ハキリストト次ハキリストト来らん

四 属する者なり後カレ諸政および諸權威を滅して國を交は神に付さん是終さる蓋カレ諸の敵を其足は下に置き置さまでハ王たらざるを得ざれば也最後に滅さる敵ハ死なり三もの刑すべての物をキリストの足下に置給へバなり萬物を其下に置りて云給るときハ萬物を其下に置どころの者ハ其内にわらざることを明かなり三萬物カレに服ふときハ子も亦みづから萬物を己に服ハしし者に服ふべし是刑すべての物は上に主

三 何の爲にせんとする乎かれら死し者の爲にバアスマを受るハ何故や

二 早や何の爲に我儕の爲に危険を居る我儕の主キリストイエスに在て

一 爾曹ハキリストが有る言をさし誓て我日々死ると言若われ人の如くエ

二 ンバ於て罰と共に罰ハしならバ何の益あらん乎も死し者甦らずバ飲

三 食するわ若す我儕明日迄ぬべき者なれば也爾曹自ら欺く勿れ惡交は

四 善行を害ふなり言ならん言ならん言ならん言ならん言ならん言ならん

五 神を知ざる者あり我かく言て爾曹を愧しむる也人あるハ人間死し

六 者いかに甦るや如何なる身體わて来る乎思なる者ハ爾が播どころの

七 種まづ死ざれば生ず又なんぢが播どころのもの將來はゆる所の體を播

八 本非ず麥にても他の穀にても只一粒のみ然るを神ハ己の意を隨ひて之を

九 體を手へ種ぞとわ其おのの形體を手へ給ふ凡の肉おなじ肉に非ず

十 人の肉あり罰の肉あり鳥の肉あり魚の肉あり天を屬る物の形體あり地

六	律五〇五節十五〇廿四
七	哥羅五十六節四〇十五
八	提九〇八節一節四二〇
九	帖十九〇九節三節四〇
十	羅前四〇七節九節九節
十一	羅前四〇七節九節九節
十二	羅前四〇七節九節九節
十三	羅前四〇七節九節九節
十四	羅前四〇七節九節九節
十五	羅前四〇七節九節九節
十六	羅前四〇七節九節九節
十七	羅前四〇七節九節九節
十八	羅前四〇七節九節九節
十九	羅前四〇七節九節九節
二十	羅前四〇七節九節九節
二十一	羅前四〇七節九節九節
二十二	羅前四〇七節九節九節
二十三	羅前四〇七節九節九節
二十四	羅前四〇七節九節九節
二十五	羅前四〇七節九節九節
二十六	羅前四〇七節九節九節
二十七	羅前四〇七節九節九節
二十八	羅前四〇七節九節九節
二十九	羅前四〇七節九節九節
三十	羅前四〇七節九節九節
三十一	羅前四〇七節九節九節
三十二	羅前四〇七節九節九節
三十三	羅前四〇七節九節九節
三十四	羅前四〇七節九節九節
三十五	羅前四〇七節九節九節
三十六	羅前四〇七節九節九節
三十七	羅前四〇七節九節九節
三十八	羅前四〇七節九節九節
三十九	羅前四〇七節九節九節
四十	羅前四〇七節九節九節
四十一	羅前四〇七節九節九節
四十二	羅前四〇七節九節九節
四十三	羅前四〇七節九節九節
四十四	羅前四〇七節九節九節
四十五	羅前四〇七節九節九節
四十六	羅前四〇七節九節九節
四十七	羅前四〇七節九節九節
四十八	羅前四〇七節九節九節
四十九	羅前四〇七節九節九節
五十	羅前四〇七節九節九節

を過之とあるべし斯て爾曹が我を我ゆへに處わ送んてを望むべしと送問
 なんぢらを見ん事を欲ハす主とし我に許さバ爾曹と偕に居んてを
 望むハ我ペンテラコスタマでエペンに居んカラウノ廣カク功効を成れ門ひら
 けて我前に在る者多ければ也○テモテ若いたらバ爾曹慎て彼を
 して懼る所なく爾曹の中に居しめ蓋かれも我如く主は事を務る者なれ
 べ也○是故に爾曹かれを藐視事なく平安に送て我が所に來らしめよ我が
 れが他は兄弟等と偕に來るを待たなり○兄弟アポロに就てハ兄弟等と偕
 に彼が爾曹に到らんてを我大に勸れ彼等ならん今往て之を欲はす然
 便時わらバ往べし士なんぢら自らを醒し堅く信仰に立て丈夫に如く剛
 爾曹は行ふ所みな愛を以て行ふべし○兄弟よスラバナは家ハ即ちアカ
 ンヤれ初は果なり又かれらが聖徒に之に身を委て事するノ爾曹が知て
 也去われ勸む爾曹此れ如き者および之と偕に勞る者に服せよ我スラ
 バナとポルトナトとアカイコに來るを喜ぶ是なんぢらに缺る所を補へ

十六	日 羅二〇五節九
十七	日 羅二〇五節九
十八	日 羅二〇五節九
十九	日 羅二〇五節九
二十	日 羅二〇五節九
二十一	日 羅二〇五節九
二十二	日 羅二〇五節九
二十三	日 羅二〇五節九
二十四	日 羅二〇五節九
二十五	日 羅二〇五節九
二十六	日 羅二〇五節九
二十七	日 羅二〇五節九
二十八	日 羅二〇五節九
二十九	日 羅二〇五節九
三十	日 羅二〇五節九
三十一	日 羅二〇五節九
三十二	日 羅二〇五節九
三十三	日 羅二〇五節九
三十四	日 羅二〇五節九
三十五	日 羅二〇五節九
三十六	日 羅二〇五節九
三十七	日 羅二〇五節九
三十八	日 羅二〇五節九
三十九	日 羅二〇五節九
四十	日 羅二〇五節九
四十一	日 羅二〇五節九
四十二	日 羅二〇五節九
四十三	日 羅二〇五節九
四十四	日 羅二〇五節九
四十五	日 羅二〇五節九
四十六	日 羅二〇五節九
四十七	日 羅二〇五節九
四十八	日 羅二〇五節九
四十九	日 羅二〇五節九
五十	日 羅二〇五節九

なりハ彼等わが心と爾曹は心を慰めたり是故に爾曹かくは如き者を重ん
 ずべし○アジアは諸教會なんぢらに安を問アクラベソリスキラ及び其家
 此教會主に在て爾曹に切々に安を問ニ諸兄弟なんぢらも安を問なんぢ
 ら深き接吻を以て互に安を問ニ我ハソク親手なんぢらも安を問ニもし人
 士ハエスキリストを愛せざれば詛入るべし主臨らん三願くハ主ハエスキ
 リストに恩あんならば借わわれニわが愛すべてハエスキリストに在る爾
 曹と偕わ在なりアメン